



TOKUSHU
TOKAI
PAPER

TECHNOLOGY & TRUST
特種東海製紙グループ

2027年3月期 第1四半期決算説明資料

2026年8月7日

※ 本資料に掲載しております当社の計画および施策などは発表日時点において把握できる情報から得られた当社の経営判断に基づいております。
様々なリスクおよび不確定要因により、実際の業績と異なる可能性がございますことを予めご承知おきくださいますようお願い申し上げます。

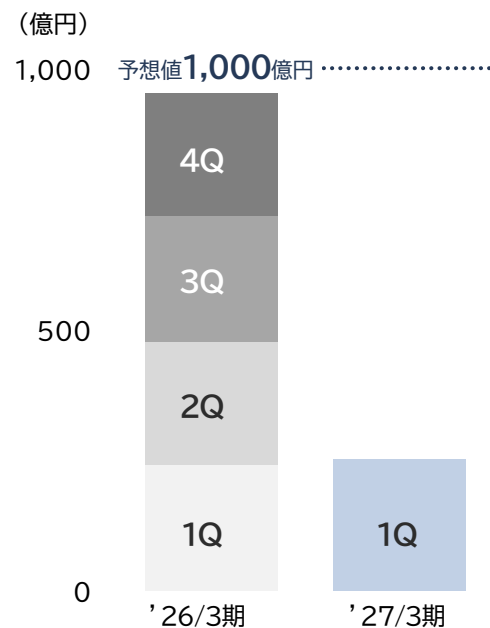
2027年3月期 第1四半期業績 | 連結業績ハイライト(1/2)

前年同期比で増収増益、売上高・営業利益・経常利益では20期中で過去最高値を更新。
通期業績予想に対して計画通りに進捗。

売上高 **252.3**億円

(前年同期比 +3.9%)

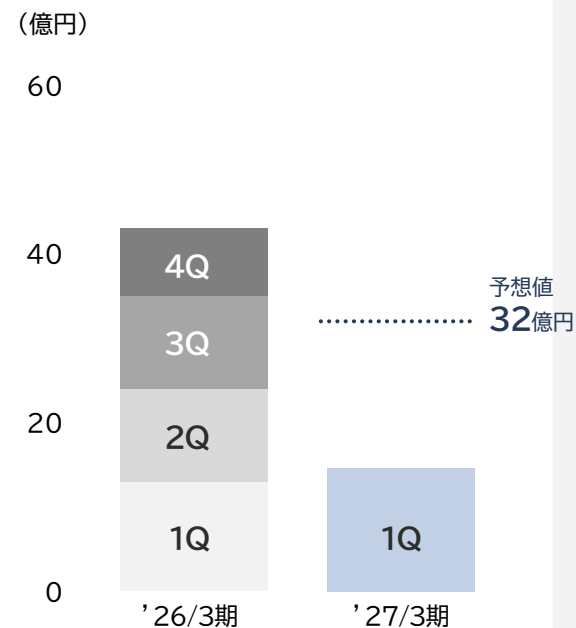
進捗率
25.2%



営業利益 **14.6**億円

(前年同期比 +10.5%)

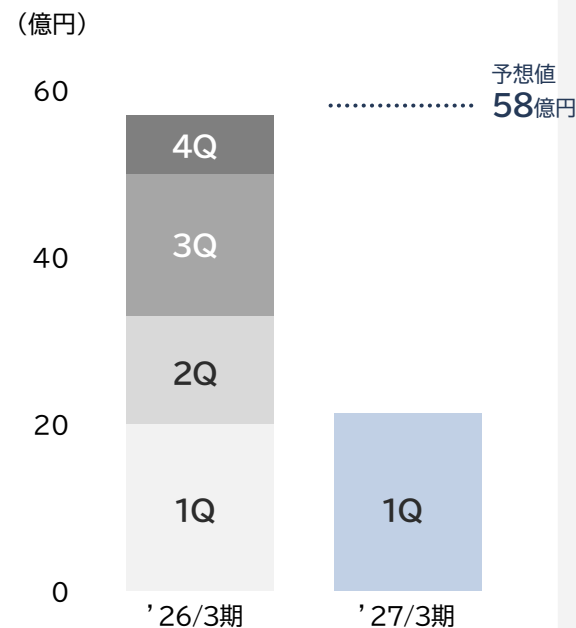
進捗率
45.6%



経常利益 **21.3**億円

(前年同期比 +7.3%)

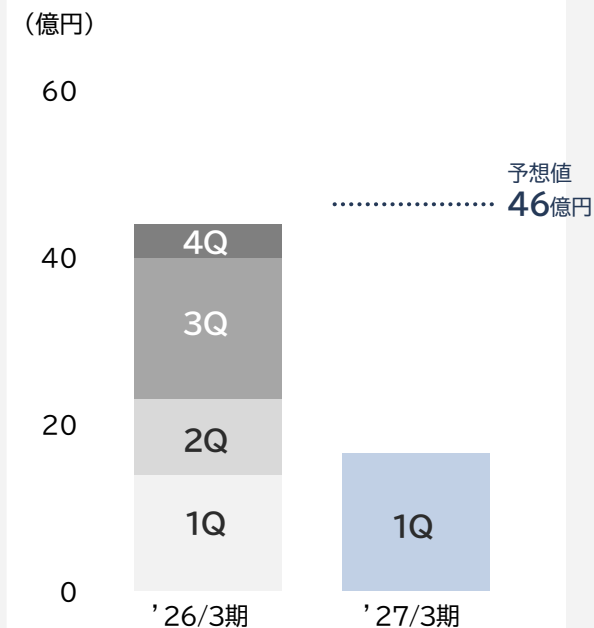
進捗率
36.7%



四半期純利益 **16.5**億円

(前年同期比 +20.2%)

進捗率
35.9%



2027年3月期 第1四半期業績 | 連結業績ハイライト(2/2)

■ 前年同期比

	2026/3期 1Q (実績)	2027/3期 1Q (実績)	前年同期比	
売上高	24,284	25,225	+941	+3.9%
営業利益	1,325	1,464	+139	+10.5%
経常利益	1,985	2,129	+144	+7.3%
四半期純利益	1,370	1,646	+276	+20.2%

■ 配当の状況

	2026/3期 1Q (実績)	2027/3期 1Q (予想)	前年同期比	
年間配当金 (円)	53.67	94.00	+40.33	
中間配当 (円)	21.67	47.00	+25.33	
期末配当 (円)	32.00	47.00	+15.00	
配当総額 (百万円)	1,879	3,285	+1,406	
連結配当性向 (%)	42.9	71.4	+28.5pt	

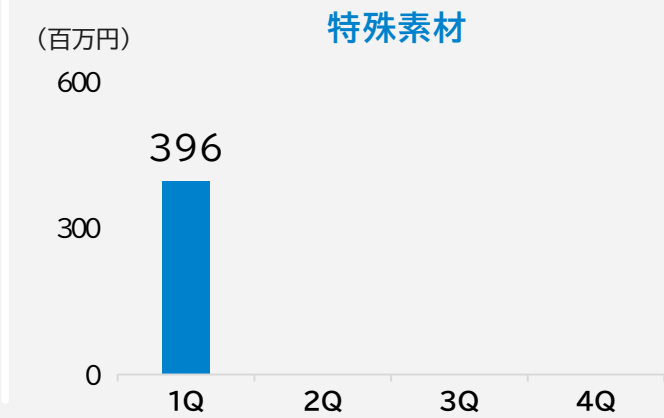
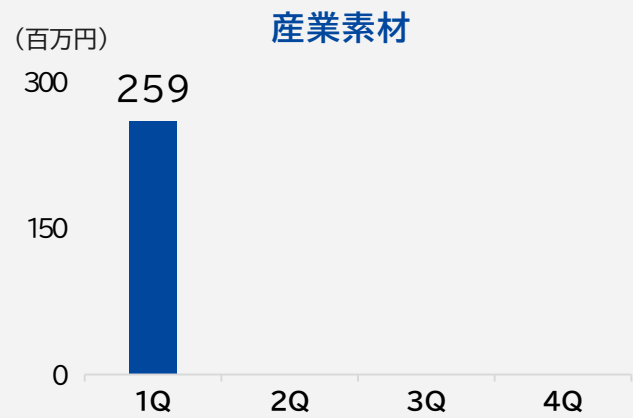
- 製紙セグメント（産業素材、特殊素材、生活商品）においては、販売数量は伸び悩んだ一方で、原燃料価格の高騰等に対する価格改定効果が発現。環境関連セグメントにおいては、建設事業や鉄・アルミや貴金属関連の再資源化が業績をけん引。これら要因により売上高・営業利益が前年同期比で増加
- 持分法投資損益は前年同期比で微減となったものの、売上高・営業利益の増加に伴って経常利益も前年同期比増益
- 四半期純利益の増加率が経常利益よりも大きい要因は前年同期に計上された固定資産除却損の反動増、リサイクル関連の工場に係る補助金の計上等によるもの
- 中東情勢による業績への負の影響は現時点では限定的
- 期初に想定していた特殊素材及び環境関連における一過性の利益押し下げ要因に関しては、第1四半期時点では未発現

2027年3月期 第1四半期業績 | セグメント実績情報(1/2)

前年同期比

(百万円)		2026/3期 1Q	2027/3期 1Q	前年同期比	
産業素材※	売上高	11,320	11,640	+320	+2.8%
	営業利益	315	259	▲56	▲17.7%
特殊素材	売上高	5,413	5,379	▲34	▲0.6%
	営業利益	532	396	▲136	▲25.5%

2027年3月期 四半期利益の推移



産業素材

- 段ボール原紙・クラフト紙については、低調だった市場環境が回復傾向にあり、販売数量が前年同期比で増加、これにより売上高が増収となった
- 一方で、製造固定費等のコストは上昇。段ボール原紙・クラフト紙以外の紙製品の利益を圧迫し営業利益は前年同期比を下回った
- 水力発電による売電は順調に稼働しており、前年同期と同水準で推移

特殊素材

- 主要な特殊機能紙の販売数量が回復した一方で、特殊印刷用紙に区分される高級印刷用紙の販売数量が想定以上に減少。価格改定効果も一部に留まり売上高は前年同期比微減
- 売上高の減少に加えて労務費等のコストが利益を圧迫し営業利益は前年同期比減少
- なお、当期に見込む一過性要因である前年の在庫の積み増しによる影響は第1四半期時点では未発現

※ 産業素材の売上高には段ボール原紙・クラフト紙に係る売上が含まれますが、損益は持分法投資損益で認識するため営業利益には含まれておりません

■ 前年同期比

(百万円)		2026/3期 1Q	2027/3期 1Q	前年同期比	
生活商品	売上高	4,706	4,895	+189	+4.0%
	営業利益	188	253	+65	+34.4%
環境関連	売上高	4,428	4,918	+490	+11.1%
	営業利益	259	574	+315	+121.5%

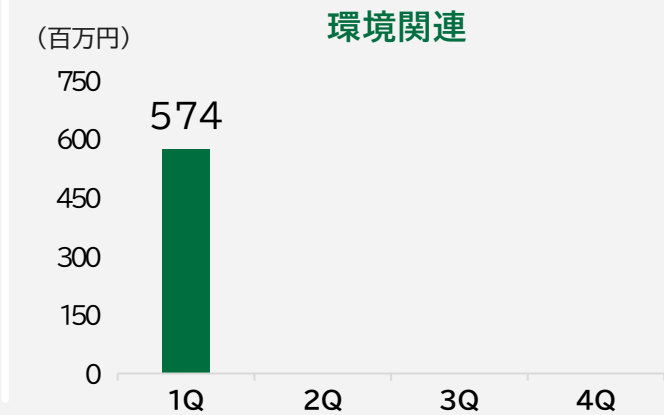
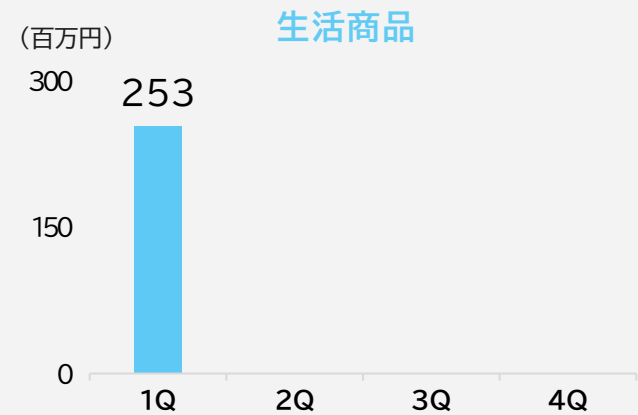
生活商品

- トイレットペーパー、ペーパータオル、ラミネート製品、いずれも販売数量が前年同期比で減少、中東情勢の影響で樹脂等の原燃料価格が上昇傾向と厳しい事業環境が続くものの、コスト上昇に対する価格改定が業績を押し上げ前年同期比で増収・増益

環境関連

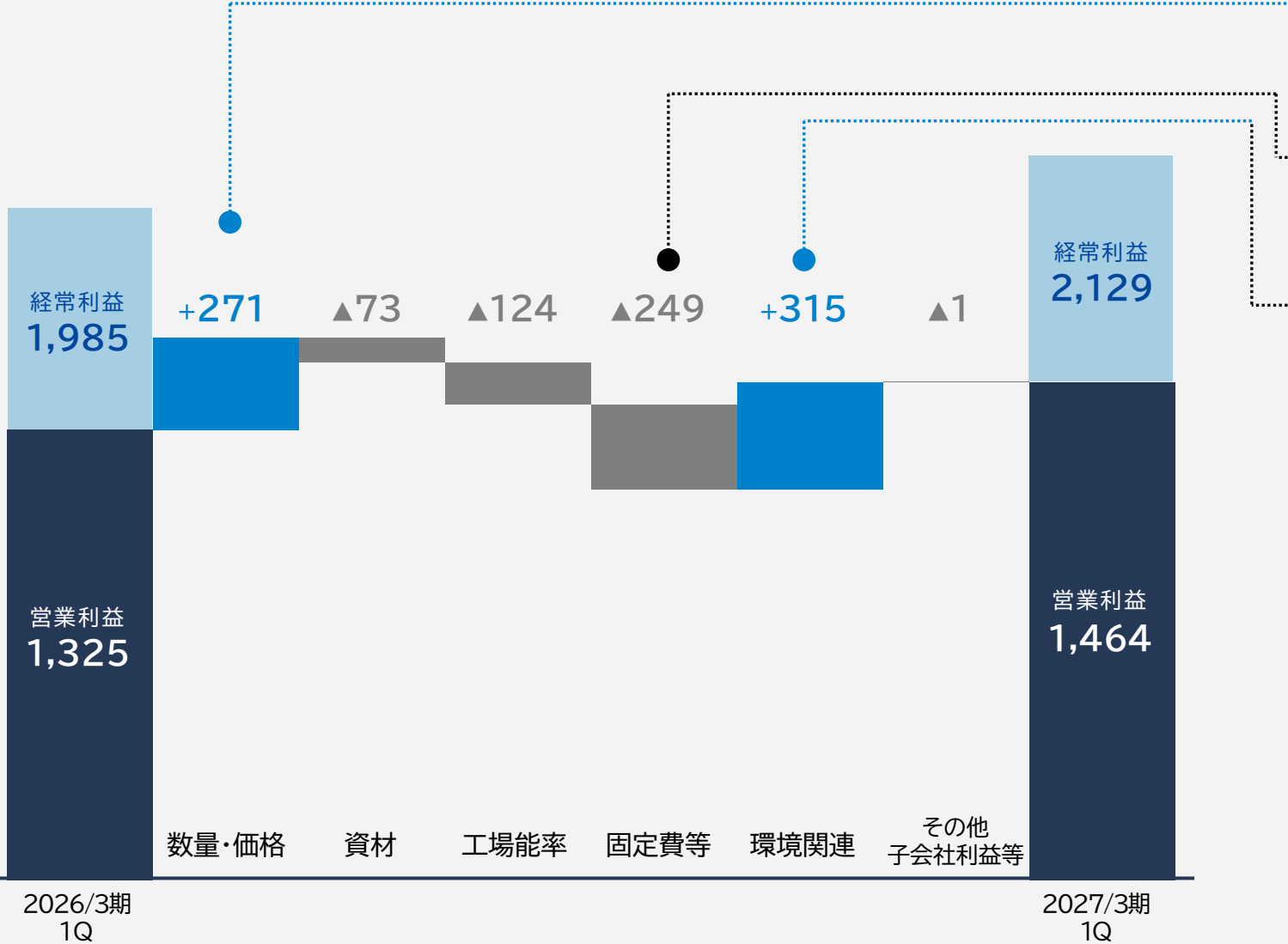
- 山林関連の自然環境活用事業、リサイクル関連の資源再活用事業、いずれの事業体でも増収増益
- 自然環境活用事業においては、建設事業の好調な工事進捗が売上高・営業利益に寄与。資源再活用事業においては、鉄・アルミや貴金属などの価格上昇に伴って、再資源化事業が堅調に推移したこと等が寄与
- 一過性要因である新事業開発に係る業務委託費用は第1四半期時点では未計上

■ 2027年3月期 四半期利益の推移



2027年3月期 第1四半期業績 | 利益の増減要因

■ 営業利益・経常利益の前年同期比増減要因



- 特殊素材では販売数量減少が価格改定効果を上回ったものの、生活商品では価格改定効果が販売数量減少を上回り+271
- すべての製紙セグメントで労務費等の固定費が増加し▲249
- +315のうち約2/3が自然環境活用における建設事業、約1/3が資源再活用によるもの
- 資源再活用における中東情勢の影響としては建設廃材関連では着工・工程の遅延により業績の押し下げ要因となった一方、鉄・アルミや貴金属の再資源化物の価格上昇で資源再活用事業全体としては業績に対しプラスに影響

(百万円)	2026/3期末	2027/3期 1Q末	前年期末比
資産合計	141,310	141,859	+549
流動資産	50,983	52,077	+1,094
固定資産	90,326	89,782	▲544
負債合計	51,208	50,755	▲453
流動負債	33,400	30,930	▲2,470
固定負債	17,808	19,825	+2,017
純資産	90,102	91,104	+1,002
自己資本	83,297	84,382	+1,085
参考：自己資本比率	58.9%	59.5%	+0.6pt
負債純資産合計	141,310	141,859	+549

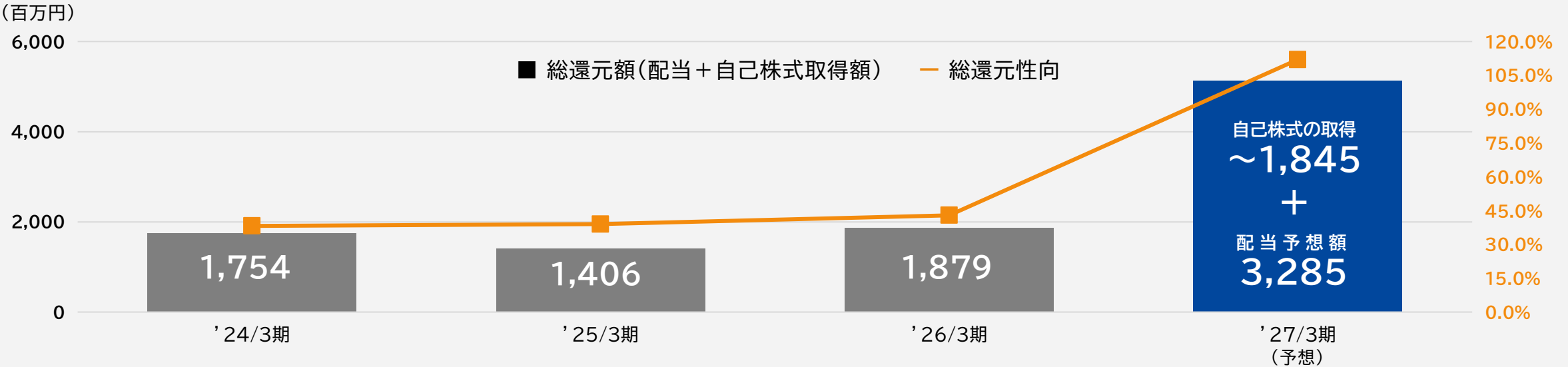
- 金利上昇に備え借入金の長期シフトを実施したことにより短期借入金が減少

(参考)トピックス | 自己株式の取得及び消却の実施

資本効率の向上・株主還元の充実・今後の経営環境変化への対応を目的に7次中計における方針に基づく自己株式取得を実施
上限まで取得をした場合2027年3月期における総還元性向(予想)は100%を超える見込み

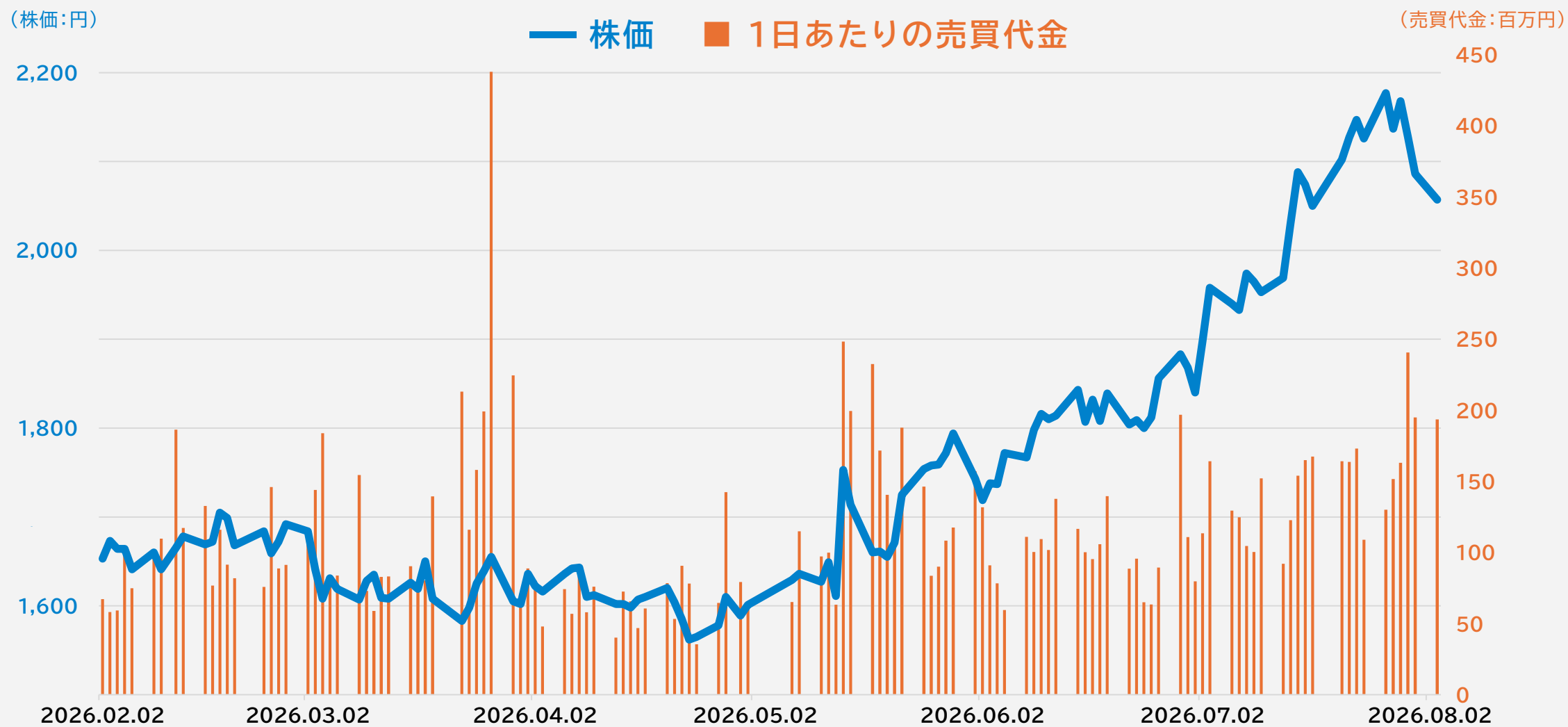
取得する株式の種類	当社普通株式
取得する株式の総数	900,000株(上限) ※自己株式を除く発行済株式総数の2.56%
株式の取得価額の総額	1,845百万円(上限) ※8月7日の終値で上限まで取得した場合の試算額
取得方法	2026年8月7日の終値(最終特別気配を含む)で2026年8月10日午前8時45分の東京証券取引所の自己株式立会外買付取引において買い付けを委託

自己株式の保有方針※に基づき
取得した株式は全量消却を予定



※ 自己株式の保有等に関する基本方針にて、「自己株式の保有については発行済み株式総数の10%程度を上限とし、それを超過する部分は消却を検討」することとしております。
(<https://www.tt-paper.co.jp/news/ir/4735/>)

(参考)トピックス | 株式情報 (直近半年間の推移)



一過性の要因により営業利益は減益を見込む一方、価格改定により売上高は増収、経常利益・当期純利益については増益予想。
1 Q期末時点では期初予想からの変更はなし。

■ 前年同期比

	2026/3期 (実績)	2027/3期 (予想)	前年同期比	
売上高	95,413	100,000	+4,587	+4.8%
営業利益	4,296	3,200	▲1,096	▲25.5%
経常利益	5,728	5,800	+72	+1.2%
当期純利益	4,368	4,600	+232	+5.3%

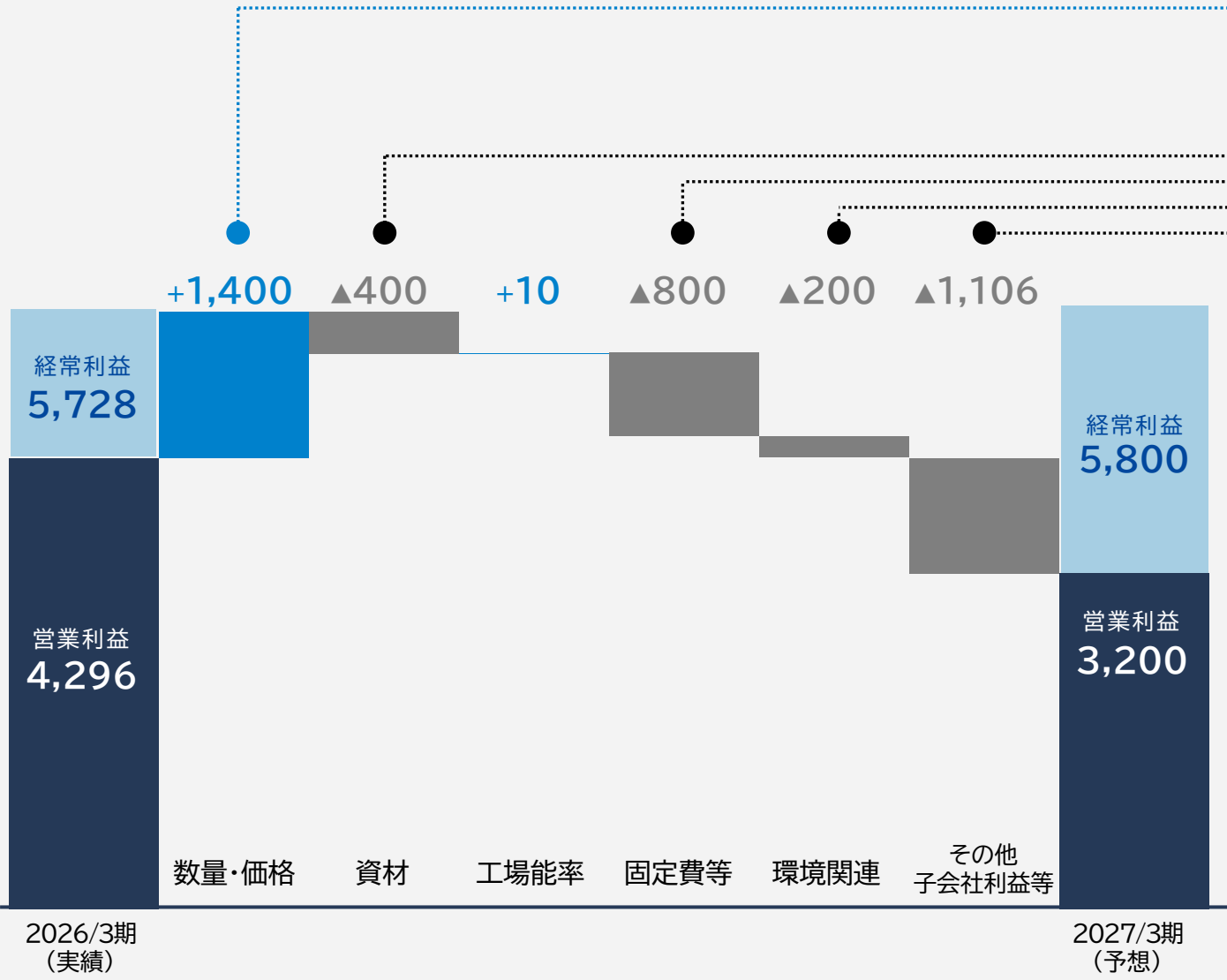
■ 配当の状況

	2026/3期 (実績)	2027/3期 (予想)	前年同期比
年間配当金 (円)	53.67	94.00	+40.33
中間配当 (円)	21.67	47.00	+25.33
期末配当 (円)	32.00	47.00	+15.00
配当総額 (百万円)	1,879	3,285	+1,406
連結配当性向 (%)	42.9	71.4	+28.5pt

- 原燃料価格の高騰に伴う各製紙事業における価格改定等により売上高は過去最高を予想
- 営業利益については以下の一過性要因により減益を想定
 - ・ 特殊素材事業における更新工事に伴う一部生産設備の停止に伴う2026/3期で滞留した固定費の払い出し
 - ・ 資源再活用事業における新たな商圈拡大に向けた費用の先行支出など
- 中東情勢の影響により原油価格の上昇、原燃料の供給不安定化、物流コスト増加等が懸念。
今後の動向を注視しつつコスト削減や価格転嫁に取り組む
※大幅に業績予想が変動する場合には速やかに開示
- D0E4.0%基準での配当想定により、大幅な増益は見込めない中でも安定した株主還元を実施予定

(参考)2027年3月期 業績予想 | 利益の増減要因

■ 営業利益・経常利益の前年同期比増減要因



- 特殊素材事業、生活商品事業における価格改定 (いずれも2026年4月～)
- 前年同期で調整局面にあった特殊機能紙の数量回復
- 各製紙セグメントにおける古紙、パルプ等の原料を主とした原燃料価格の高止まり
- 各製紙セグメントにおける労務費等の固定費の増加
- 特殊素材事業における更新工事に係る修繕費増加
- 再資源化領域での新事業開発に係る業務委託費用
- 前年に積み増した在庫に滞留する固定費の払い出し
- 持分法投資利益の増加による経常利益増加を想定



- 2027年3月期第2四半期決算は2026年11月12日の発表を予定しております。
決算説明会の開催情報につきましては後日当社HPにてお知らせをいたします。
- 当資料・決算等に関するお問い合わせ先：
ttp.ir@s.tt-paper.co.jp コーポレートセンター | IR・広報部